

## 学内での活動

### 1 IAMAS ARTIST FILE 事業担当・出展作家

第10回目となる IAMAS ARTIST FILE #10 「繭／COCOON：技術から思考するテクノロジー」の企画担当として、年間を通じて関連イベントの企画実践、運営、広報にかかわった。出展作家として、関連イベント等に参加した。広義の技術の観点からエコロジーに對峙する芸術実践を多角的なアプローチで汲み取り、好評を得た。参加型作品を出展し、子どもを含め、広い鑑賞者に積極的にコミットしてもらえらるための展覧会づくりに取り組んだ。IAMAS OPEN HOUSE 2024 のイベントでは、本展のテーマ「繭」の引用元である Métamorphose (E.Coccia) の役者である宇佐美達朗さんをお招きしてディスカッションをおこなった。



### 2 プロジェクト授業「テクノロジーの解釈学」

「テクノロジー」をブラックボックスではなく開かれたものとして解釈する一つの考えとして、異なる理論書の輪読を通じて、技術哲学・メディア考古学・技術倫理の導入をおこなった。今年度の輪読では、『世界は時間からできている』(2022)、『メディア考古学とは何か? : デジタル時代のメディア文化研究』(2023/2012)、『技術の道徳化：事物の道徳性を理解し設計する』(2015/2011) を読解し、解説した。

### 3 プロジェクト萌芽「ファルマコン:現代社会における〈毒〉の重要性」

年度内を通じて、プロジェクトのテーマである「ファルマコン」のアイデアを広く伝え、理解を深めるため、関連イベントの実施（OPEN HOUSE 2024 「〈毒〉の重要性研究 2024：毒プロアップデート」、アーカイブ、成果報告冊子『ポワゾン・ルージュ 2024』の編集・執筆をおこなった。



### 4 紀要原稿の執筆（研究ノート・批評・IAMAS ARTIST FILE 報告）

展覧会「遍在、不死、メタモルフォーゼ」（2024.04.27-05.26、瑞雲庵、京都）の実践を踏まえた研究ノート、および、展覧会「うつしの美学」（2024、東京）についての批評を執筆した。また、IAMAS ARTIST FILE #10 事業担当として、展覧会の記録についての寄稿を担当した。



## 5 IAMAS ガムラン部

ガムラン部の顧問として、学生と共に定期的な練習に取り組み、OPEN HOUSE 2024、OKB サマーフェスティバルなどの演奏機会でガムラン音楽を広めた。

## 学外での社会活動（公的）

### 1 展覧会「遍在、不死、メタモルフォーゼ」実施

西枝財団「2024 年度 瑞雲庵における若手創造者支援プログラム」に採択され、キュレーターとして展覧会を実施した。国内外で活躍する日仏拠点の5人のアーティストを京都上鴨地区に位置する瑞雲庵で紹介し、好評を得た。また、関西を中心に現代美術、エコロジーアートに関心のある学生・若い芸術関係者の訪問を得た。活動の記録は冊子にまとめたほか、オープニングトークはウェブサイトにてアーカイブした。記録冊子もウェブサイト上で公開予定。

Website: <https://artsensibilisation.com>



### 2 日本記号学会第44回大会『「繭としての技術」の領域越境性とその問題点』

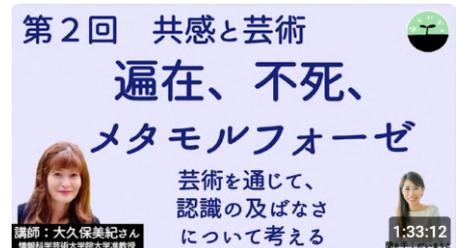
鹿児島大学で実施された記号学会全国大会において、共感論研究進捗に関する口頭発表を実施した（単著）。専門である共感論研究を、非人間存在まで拡張し、エコロジーアートの思考に援用する手がかりとして、「繭」(E.Coccia)の提唱する新たな技術についての考えを解釈した。本研究では、2022年以来の記号学会・美学会での発表を踏まえ、さらに、展覧会「遍在、不死、メタモルフォーゼ」(2024、京都)での実践というキュレーター・アクションリサーチを踏まえた研究進捗を提示した。

### 3 美学会西部会 第351回研究発表会『「技術」としての芸術の批評に向けてーエマヌエーレ・コッチャの「繭」の理論の再考』

名古屋大学で開催された美学会西部会において、エマヌエーレ・コッチャの自然哲学とアンリ・ベルクソンの進化論に依拠した発表を行い、「繭」の哲学について深化した（単著）。特に、コッチャの繭の理論から器官学を再訪し、「器官」「延長」「共感」の三つの観点を考察した点で独自性がある。本研究は、芸術実践、展覧会実践にも援用された。

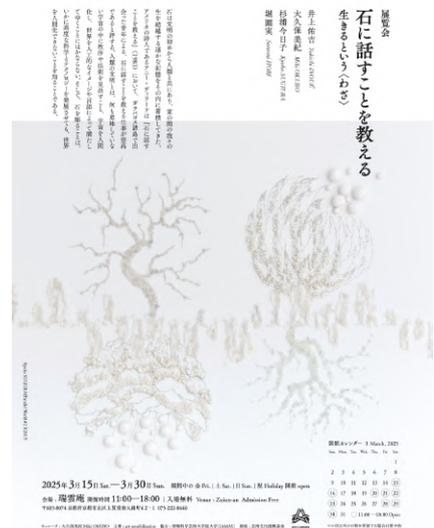
### 3 「未来に残したい授業」 (@lessons\_for\_the\_future) 定期的出演

- ・ 16千人以上がフォローする教育的 YouTube チャンネル「未来に残したい授業」に出演し、知識の社会的共有に努めた。
- ・ 「性愛を美学する」シリーズ、「人生、生、死について」、「不安を美学する」に出演し、人間の根源的問いの一つである生死や性をめぐる問いについて美学者の吉岡洋氏・加藤有希子氏と共演した。
- ・ 「共感と芸術」シリーズでは、本当の想像力を問い、「共感」を無生物まで拡張し、「エコロジーを思考する」試みや、展覧会「遍在、不死、メタモルフォーゼ」の紹介を通じてエコロジーを思考するための共感の可能性を紹介した。



### 4 芸術文化振興基金 令6美術・メディア芸術等の総合普及活動採択

アニー・ディラードの小説 *Teaching a stone to talk* (1983) をもとに着想した展覧会「石に話すことを教える：生きるという〈わざ〉」が採択され、Yukichi INOUÉ の「Mille et une têtes」をめぐって、大久保美紀・杉浦今日子・堀園実の3作家がマチエールと生きるためのアートを問う展覧会を企画した。開催は京都・瑞雲庵にて2025年3月15日(土)から3月30日(日)を予定している。



### 5 日本記号学会第45回大会 実行委員長

25年度開催の日本記号学会大会の実行委員長を務めることが決定し(2025年7月開催予定、IAMAS、岐阜)、IAMASでの開催に向けて、本学において開催する特色を最大限に生かすための企画・運営に取り組んでいる。

### 6 NAGANO ORGANIC AIR 2024 協力

長野県小谷村におけるアーティスト・イン・レジデンスで滞在作家をサポートし、記録冊子編集に協力した。成果発表展覧会の広報にも協力した。



### 7 岐阜市文化芸術推進審議会

令和5年度に引き続き、学識経験者として、委員として参加し、「清流の国ぎふ」文化祭2024の振り返り、岐阜市文化センターの活用に関する議論、文化系部活動地域移行における問題について、積極的に意見交換に参加し、文化芸術推進に尽力した。

2024 年度業績リスト（採択、企画、作品発表、学会発表、出版）

### 採択

芸術文化振興基金 令6 美術・メディア芸術等の総合普及活動採択

石に話すことを教える：生きるという〈わざ〉

### 企画

遍在、不死、メタモルフォーゼ

2024.04.27 - 05.26 瑞雲庵、京都

IAMAS ARTIST FILE #10 繭／COCOON 技術から思考するエコロジー

2025.01.10 - 03.09 岐阜県美術館、岐阜

### 作品発表

IAMAS ARTIST FILE #10 繭／COCOON 技術から思考するエコロジー

2025.01.10 - 03.09 岐阜県美術館、岐阜

« L'Arbre-Monde »（インスタレーション、florian gadenne + miki okubo として）

### 学会発表

大久保美紀、単著、「繭としての技術」の領域越境性とその問題点

日本記号学会第44回大会、鹿児島大学

大久保美紀、単著、「技術」としての芸術の批評に向けてーエマヌエーレ・コッチャの「繭」の理論の再考

美学会西部会 第351回研究発表会、名古屋大学

### 出版

大久保美紀、単著、エマヌエーレ・コッチャの「繭」の理論に基づく「エコロジーアート」の批評—展覧会「遍在、不死、メタモルフォーゼ」の実践を通じて、IAMAS 紀要 2024

大久保美紀、単著、模倣する芸術：展覧会「うつしの美学」をめぐる考察、IAMAS 紀要 2024

大久保美紀、寄稿、IAMAS ARTIST FILE #10 繭／COCOON 技術から思考するエコロジー、IAMAS 紀要 2024

大久保美紀、寄稿、「繭」という技術：エコロジーを思考する芸術は可能か、IAMAS ARTIST FILE #10 記録冊子

大久保美紀、単著、「潜在的患者」をめぐる技術の道徳性：超音波検査機診断から「繭」の技術論まで、『ポワゾン・ルー  
ジュ vol.5』（ファルマコン：現代社会における〈毒〉の重要性研究 成果報告冊子